

2018年（平成30年） 11月16日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieee.or.jp>

■ 概況

11/1~11/7のNYMEX・WTIは、61.67~63.69ドルの範囲で推移した。

11月8日は、前日のEIA週報の米国原油在庫の7週連続の増加、イラクのガドバン新石油相による同国の2019年の増産計画発表等、供給過剰感から、9営業日続落した。12月限終値は前日比1.00ドル安の60.67ドルだった。

週末9日は、イラン産原油輸入停止の適用除外措置など、先日来の供給過剰感の高まりの中で、10日続落した。サウジ政府系シンクタンクによるOPEC解体時の影響に関するスタディの報道も重荷となった。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は886基(前週比12基増)と2週ぶりに増加した。12月限終値は前日比0.48ドル安の60.19ドル。

週明け12日は、11日のアブダビにおけるOPEC・非OPEC合同関係監視委員会で12月のOPEC総会・合同会議で減産が必要との認識で合意されたことから買いが先行したが、トランプ大統領がツイッターで「可能ならサウジやOPECに減産してほしくない」と牽制したことから売り戻され、11営業日続落、節目の60ドルを割った。なお、サウジのファリハ・エネルギー相は、サウジは12月前月比日量50万バレル減産する、2019年は世界で18年10月比100万バレルの減産が必要と述べた。12月限終値は前週末比0.26ドル安の59.93ドル。

13日は、先日来の供給過剰感に加え、OPEC月報が19年の世界需要見通しを下方修正、加盟国10月産油量を前月比日量12.7万バレル増加の3290万バレルと報じたことから、史上最長の12営業日続落した。12月限終値は前日比4.24ドル

安の55.69ドル。

14日は、OPECと非OPECは次回会合で最大日量140万バレルの減産を検討との報道を受け、13営業日ぶりに反発した。ただ、IEA月報の2019年を通じて供給過剰となるとの見通しが上げ幅を圧縮した。12月限終値は前日比0.56ドル高の56.25ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、前週70.80~73.20ドルの範囲で推移した。11月8日70.90ドル、9日69.90ドル、12日70.50ドル、13日68.50ドル、14日64.20ドルで推移した。

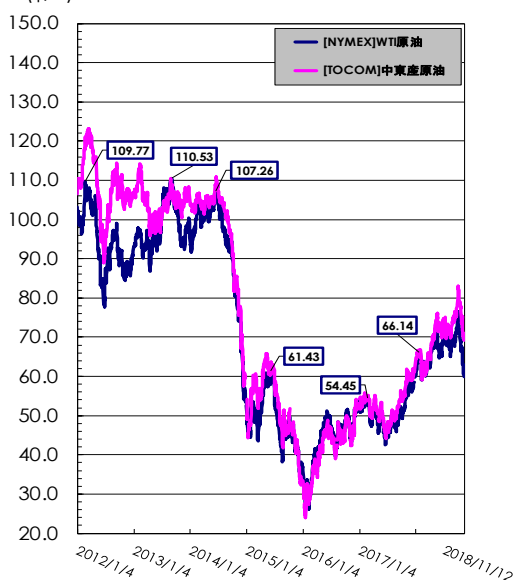
為替は、前週112.79~113.23円の範囲で推移した。11月8日113.63円、9日114.03円、12日113.94円、13日113.66円、14日113.94ドルで推移した。

主要元売会社の11月第2週に適用する卸価格は、ガソリンは全社1.5円の値下げ、軽油と灯油は1.0~1.5円の値下げに分かれた。原油価格は大きく値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油調達コストは大きく値下がりとなった。

そのような中で、11月12日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.2円の値下がり、軽油も同1.0円の値下がり、灯油も同10円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、3週連続の値下がりだった。この週(11月第1週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0~2.5円の値下げだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/4 ~ 11/10	3,445 ▲ 341	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	88.0 ▲ 8.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/10	13,121 ▲ 448	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/12	70.10 ▼ -0.58	▲ 8.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/12	59.93 ▼ -3.17	▲ 3.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	80.16 ▲ 3.38	▲ 25.35
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	57,334 ▲ 2,963	▲ 18,586
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.71 ▼ -1.11	▼ -1.31
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/12	114.94 ▼ -0.71	▼ -0.26

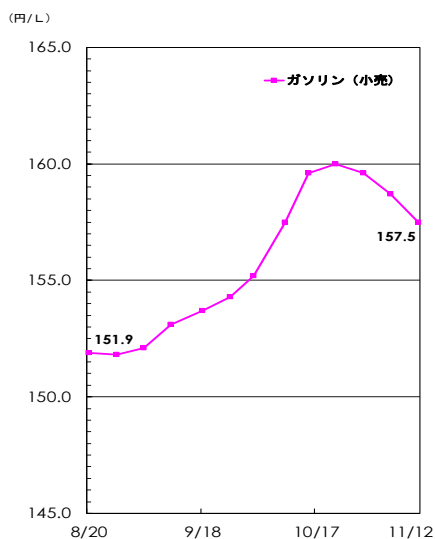
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/4 ~ 11/10	975 ▲ 58	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	874 ▲ 28	▼ -	
	輸出	"	32 ▲ 32	▼ -	
	在庫	11/10	1,788 ▲ 68	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/6 ~ 11/12	66.7 ▼ -3.1	▲ 8.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/6 ~ 11/12	62.2 ▼ -1.5	▲ 3.0
		(TOCOM/中部)	11/12	62.9 ▼ -0.6	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/12	157.5 ▼ -1.2	▲ 19.2	

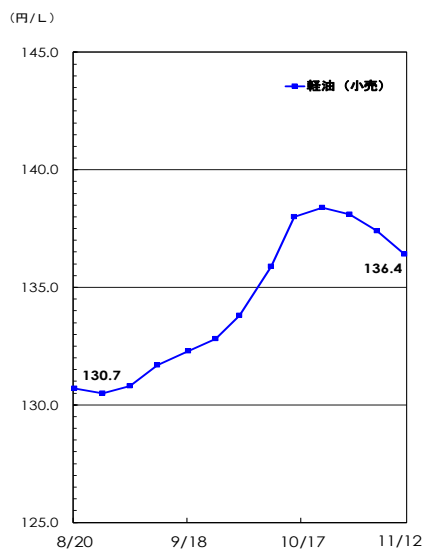
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

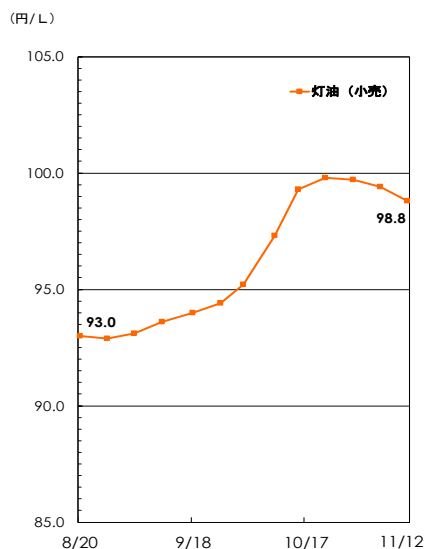
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/4 ~ 11/10	729 ▲ 63	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	667 ▲ 44	▼ -	
	輸出	"	34 ▼ -14	▼ -	
	在庫	11/10	1,483 ▲ 28	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/6 ~ 11/12	69.9 ▼ -2.0	▲ 12.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/6 ~ 11/12	71.2 ▼ -1.1	▲ 16.2
		(TOCOM/中部)	11/12	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/12	136.4 ▼ -1.0	▲ 20.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/4 ~ 11/10	348 ▲ 119	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	207 ▲ 69	▼ -	
	輸出	"	50 ▲ 50	▲ -	
	在庫	11/10	2,805 ▲ 91	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/6 ~ 11/12	68.9 ▼ -2.2	▲ 9.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/6 ~ 11/12	67.4 ▼ -1.5	▲ 7.5
		(TOCOM/中部)	11/12	68.5 ▲ 0.5	▲ 7.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/12	98.8 ▼ -0.6	▲ 17.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月14日のNYMEX市場WTI原油は、OPECと非OPEC主要産油国が12月の次回会合で10月比最大日量140万バレルの減産を検討中であるとのロイター報道を受け、13営業日ぶりに反発した。また、ドル安・ユーロ高による原油先物の割安感や安値拾いによる買いも入りやすかった。ただ、国際エネルギー機関(IEA)はこの日発表の11月石油市場報告で、2018~19年の世界需要見通しは据え置いたものの、19年を通じて供給が需要を上回るとの見通しを発表したことから、上値は重かった。なお、米国エネルギー情報局(EIA)週報は、休日(12日、退役軍人の日)の関係で、15

日発表の予定。12月限終値は前日比0.56ドル高の56.25ドル、1月限の終値は前日比0.60ドル高の56.44ドルだった。

EIAによると、11月12日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.7セント値下がりの1ガロン2.686ドル(81.5円/ℓ)、ディーゼルは前週比2.1セント値下がりの3.317ドル(100.6円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年11月4日~11月10日に休止したトッパー能力は21.3万バレル/日で、前週に対して21.1万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は344.5万klと、前週に比べ34.1万kl増加。前年に対しては7.1万klの減少。トッパー稼働率は88.0%と前週に対して8.7ポイントの増加、前年に対しては1.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.4%増、ジェット/29.9%減、灯油/52.1%増、軽油/9.5%増、A重油/11.0%増、C重油/16.5%減。今週のC重油の輸入は4.1万kl(前週比3.9万kl増)。軽油の輸出は3.4万kl(前週比1.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では全ての油種で減少となった。ガソリンの出荷は87.4万kl(対前週3.3%増)と前週比で2週振り増加となり、10週連続で100万klを下回った。ジェット2.3万kl(対前週71.5%減)、灯油20.7万kl

(対前週49.3%増)、軽油66.7万kl(対前週7.0%増)、A重油20.3万kl(対前週2.5%増)、C重油19.0万kl(対前週23.3%増)。

(単位:千kl)

	今週 (11/4 ~ 11/10)	前週 (10/28 ~ 11/3)	前週比	
ガソリン	874	846	▲ 28	(3%)
ジェット燃料	23	80	▼ -57	(-71%)
灯油	207	138	▲ 69	(50%)
軽油	667	623	▲ 44	(7%)
A重油	203	198	▲ 5	(3%)
C重油	190	154	▲ 36	(23%)
合計	2,164	2,039	▲ 125	(6%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月10日時点の在庫は、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェット、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは178.8万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては14.7万kl多い。

灯油は280.5万kl、前週差9.1万kl増。前年に対しては28.6万kl多い。

軽油は148.3万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては12.2万kl多い。

A重油は79.9万kl、前週差3.9万kl増。前年に対しては13.1万kl多い。

C重油は200.1万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (11/10)	前週 (11/3)	前週比	
ガソリン	1,788	1,720	▲ 68	(4%)
ジェット燃料	897	892	▲ 5	(1%)
灯油	2,805	2,714	▲ 91	(3%)
軽油	1,483	1,455	▲ 28	(2%)
A重油	799	760	▲ 39	(5%)
C重油	2,001	2,013	▼ -12	(-1%)
合計	9,773	9,554	▲ 219	(2.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月6日から11月12日の原油価格は、引き続き、前週対比で大きく値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン120～121円台で値下がり、軽油69～70円台で値下がり後横ばい、灯油68～69円台で値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間、ガソリン122～125円台で大きく値下がり、軽油71～73円台で大きく値下がり、灯油

65～66円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン115～117円台で大きく値下がり、軽油70～71円台で値下がり、灯油66～67円台で値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリンは1.0～3.0円の値下げ、軽油と灯油は1.0～2.0円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、前週に続き、全油種・全取引で大きく値下がりした。

11月第3週(11月15日～11月21日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月6日～11月12日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは3.1円の値下がり、灯油も2.2円の値下がり、軽油も2.0円の値下りだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.8円の値下がり、灯油も2.2円の値下がり、軽油は1.3円の値下がりだった。

先物価格は、ガソリンが1.5円の値下がり、灯油も1.5円の値下がり、軽油も1.1円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替の円安がこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。

11月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリンは1.0～3.0円の値下げ、軽油と灯油は1.0～2.0円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/6～11/12)	前週 (10/30～11/5)	前週比
レギュラー	66.7	69.8	▼ -3.1
灯油	68.9	71.1	▼ -2.2
軽油	69.9	71.9	▼ -2.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (11/6～11/12)	前週 (10/30～11/5)	前週比
レギュラー	62.2	63.7	▼ -1.5
灯油	67.4	68.9	▼ -1.5
軽油	71.2	72.3	▼ -1.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/6～11/12実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -3.1	▼ -1.5	▼ -2.3
灯油	▼ -2.2	▼ -1.5	▼ -1.8
軽油	▼ -2.0	▼ -1.1	▼ -1.5
A重油	▼ -1.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円安の157.5円、軽油も同1.0円安の136.4円、灯油は同0.6円安の98.8円(18%ベースでは10円安の1,779円)だった。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油も3週連続の値下がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは1県、横ばいは3県で、値下がり43都道府県だった。全国最安値は愛知県の152.5円(前週比2.2円安)、次が埼玉県153.2円(同0.8円安)、最高値は長崎県の168.2円(同1.2円安)であった。最も値上がりしたのは0.2円高の高知

県(162.0円)、横ばいは愛媛県・香川県・滋賀県、最も値下がりしたのは2.4円安の神奈川県(153.6円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリンは1.0～3.0円の値下げ、軽油と灯油は、1.0～2.0円の値下げに分かれた。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートの円安がこれを一部相殺したが、原油コストは大きく値下がりした。次週(11月19日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/12)	前週 (11/5)	前週比	直近高値
レギュラー	157.5	158.7	▼ -1.2	08/8/4 185.1
灯油	98.8	99.4	▼ -0.6	08/8/11 132.1
軽油	136.4	137.4	▼ -1.0	08/8/4 167.4

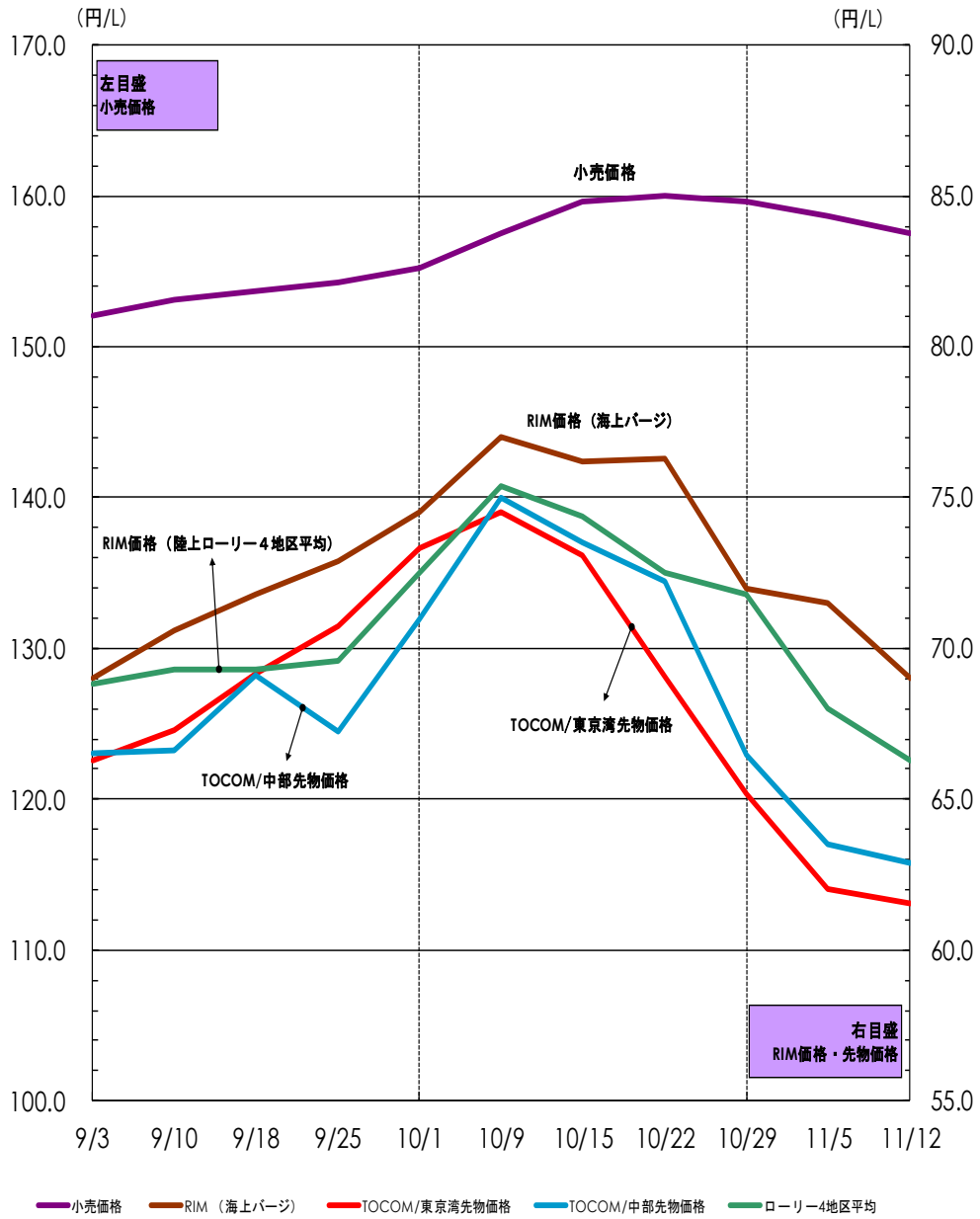
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/9/3 ~ 2018/11/12)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第32号)の公表は、11/23(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。